

令和7年度

奈良県立医科大学大学院医学研究科
(修士課程)

【医科学専攻】

学 生 募 集 要 項

令和7年度入学試験

第1次：令和6年11月5日(火)

〔第2次：令和7年1月27日(月)〕

※ 第1次募集の結果によって、第2次募集を実施しない場合があります。

奈良県立医科大学大学院医学研究科

〒634-8521 橿原市四条町840番地

電話 0744(22)3051 (内) 2401

奈良県立医科大学大学院医学研究科

アドミッションポリシー

- 1 独創的な発想と科学的探求心に富み、豊かな人間性をもつ人
- 2 医学、医療の分野において、高度の知識、技能を習得し、地域社会に貢献する人
- 3 国際的な視野に立ち、高度の研究を通して医学の発展に寄与する人
- 4 研究、教育、臨床のいずれの分野においても指導者となる志をもつ人

令和7年度

奈良県立医科大学大学院医学研究科（修士課程）学生募集要項

1 専攻課程及び募集人員

専攻	科 目	募集人員	
医 科 学	疫学 医療経営学 医療情報・病院管理学 分子・細胞動態学 分子生体構造科学 脳神経生理学 老化生物学 感染免疫学 分子腫瘍病理学 血栓止血先端医学 循環器システム医科学 腎臓病態制御医学 血液病態制御医学 循環・呼吸機能制御医学 スポーツ医科学 発生・発達医学 画像診断・低侵襲治療学 侵襲制御・生体管理医学 口腔・顎顔面病態医学 リハビリテーション医学 血液・血流機能再建医学 先端画像下治療開発応用学	公衆衛生学 MBT学 高分子医化学 相分離生物学 機能形態学 生体機能制御機構学 微生物学 情報伝達薬理学 発生・再生医学 応用医学・医療学 循環器病態制御医学 呼吸器病態制御医学 脳神経機能制御医学 運動器再建医学 小児病態制御医学 皮膚病態医学 放射線腫瘍学 臨床神経モニター学 病理診断学 臨床検査医学 臨床実証医学 陽子線腫瘍学	5

(注) (ア) 募集人員に社会人を含む。

(イ) 社会人とは、医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等において、令和7年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有する者をいう。（なお、入学後も引き続きその身分を有することができる。）

(ウ) 出願に際しては、募集人員及び研究内容について、予め志望する専攻主科目（学位論文作成の基本となる科目）の研究指導教員に問い合わせしておくこと。

2 出願資格

次の(1)～(9)のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者又は令和7年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は令和7年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけら

れた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和7年3月までに修了見込みの者

- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和7年3月までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院が認める者
- (9) 本学大学院が、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認める者で、令和7年3月までに22歳に達する者

3 出 願 期 間

第1次

令和6年10月8日（火）～10月11日（金） 9時から17時まで

郵送の場合は、10月11日（金） 17時までに必着のこと。

第2次

令和7年1月7日（火）～1月10日（金） 9時から17時まで

郵送の場合は、1月10日（金） 17時までに必着のこと。

※ 第1次募集の結果によって、第2次募集を実施しない場合があります。

4 出願受付場所

〒634-8521 奈良県橿原市四条町840番地

奈良県立医科大学 教育支援課

T E L 0744 - 22 - 3051 内線 2401

5 出 願 手 続

次に記載する(1)の提出書類に(2)の入学検定料振込証明書等を添えて提出すること。

(1) 提出書類

- (ア) 入 学 願 書 本学所定の様式（A）
- (イ) 受 験 票 ・ 写 真 票 本学所定の様式（A）
出願前3ヶ月以内に撮影した正面上半身無帽背景なし（縦4cm×横3cm）の写真（裏面に撮影年月日及び氏名を記入すること。）を貼ること。
- (ウ) 在留カード又は特別永住権 外国人のみ
出願時に日本国内に在住しない者は、受験のために有効な査証の写しを提出すること。
- (エ) 履 歴 書 本学所定の様式（B）
- (オ) 成 績 証 明 書 最終学歴（見込み含む）の成績証明書
出身大学（学部）長等が作成のうえ、厳封したもの

- (カ) 卒業（見込）証明書 最終学歴（見込み含む）の卒業又は、修了証明書
- (キ) 宛 名 票 合否通知書等送付先を記入すること。
- (ク) 受験及び就学承諾書 在職者は、本学所定の様式（C）に所属長が証明したもの
- (ケ) 志 望 理 由 書 本学所定の様式（D）
- (コ) 研 究 計 画 書 本学所定の様式（E）により 2,000 字程度にまとめる。
- (サ) 研 究 活 動 歴 本学所定の様式（F）

※出願資格審査で認定された者は（エ）～（サ）の提出を要しない。

提出上の注意

証明書が現姓と異なる場合は、改姓したことを証明できる公的な書類（交付 3 か月以内の戸籍抄本等。）を提出すること。

(2) 入学検定料 30,000 円

ATM、ネットバンキングで下記振込先に振込のこと。

振込先 公立大学法人 奈良県立医科大学

南都銀行 橿原支店 普通口座 0266177

(注 1) 振込依頼人名は「志願者氏名」の前に「GMS」を付けて入力すること。

(例) GMS イダイタロウ

(注 2) 振込手数料は志願者本人の負担のこと。

(注 3) 振込にあたっては、下記の期間内に振込のこと。

第 1 次 令和 6 年 10 月 8 日（火）～ 10 月 11 日（金）

第 2 次 令和 7 年 1 月 7 日（火）～ 1 月 10 日（金）

(注 4) 振込証明書等を入学検定料納付証明書貼付台紙に貼付け、他の提出書類と一緒に提出のこと。

(3) 出願資格の認定

2 出願資格に定める(8)又は(9)で出願する者は、事前に出願資格の認定が必要となるので、次のとおり申請すること。

① 申請期間

第 1 次

令和 6 年 9 月 2 日（月）～ 9 月 6 日（金） 9 時から 17 時まで

第 2 次

令和 6 年 12 月 2 日（月）～ 12 月 6 日（金） 9 時から 17 時まで

（郵送の場合は、書留郵便で、封筒表面に「大学院出願資格審査申請書在中」と明記の上、申請期間内の 17 時までに必着のこと。）

② 申請書類

- (ア) 出 願 資 格 審 査 申 請 書 本学所定の様式（G）
- (イ) 履 歴 書 本学所定の様式（B）
- (ウ) 成 績 証 明 書 最終学歴（見込み含む）の成績証明書
出身大学（学部）長等が作成のうえ、厳封したもの
- (エ) 卒 業 （ 見 込 ） 証 明 書 最終学歴（見込み含む）の卒業又は、修了証明書
- (オ) 受 験 及 び 就 学 承 諾 書 在職者は、本学所定の様式（C）に所属長が証明したもの
- (カ) 志 望 理 由 書 本学所定の様式（D）

- (キ) 研究計画書 本学所定の様式（E）により 2,000 字程度にまとめる。
 (ク) 研究活動歴 本学所定の様式（F）
 (ケ) 宛 名 票 可否通知書等送付先を記入すること。

提出上の注意

証明書が現姓と異なる場合は、改姓したことを証明できる公的な書類（交付 3 か月以内の戸籍抄本等。）を提出すること。

- ③ 出願資格審査の方法
 申請書類により行う。ただし、必要と認めたものについては、口述審査を行う。
 ④ 出願資格審査の結果通知
 出願期間までに資格審査結果を郵送により申請者あて通知する。

6 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、出身大学等の成績証明書の結果を資料とし、総合して行う。

学力検査 ※ 第 1 次募集の結果によって、第 2 次募集を実施しない場合があります。

日		時	科 目		試 験 場
第 1 次 令和 6 年 11 月 5 日 (火)	午前	10 時 00 分～ 11 時 30 分	英	語 筆答	当 日 指 示
	午後	13 時 00 分～ 14 時 30 分	専 攻 主 科 目	口答	当 日 指 示
第 2 次 令和 7 年 1 月 27 日 (月)					

(注) (ア) 試験場への辞書の持ち込みを認める。(電子辞書を除く。)

(イ) 専攻主科目の口答試験は、志願した当該主科目の研究指導教員が行う。

7 合格者発表

第 1 次

令和 6 年 12 月 10 日 (火)

(第 2 次
令和 7 年 3 月 4 日 (火))

本学ホームページに掲載する。また、合格者に対しては、本人あてに通知する。

8 入 学 手 続

入学料を、後日郵送する納入通知書により金融機関窓口で納付し、その領収書と(1)の入学手続書類を提出すること。

(1) 入学手続書類

- (ア) 保証人誓約書 本学所定の様式に保証人が連署したもの
- (イ) 卒業証明書 卒業見込みで受験した者
- (ウ) 本人画像 入学手続き前3ヶ月以内に撮影した正面上半身無帽背景なし(縦4cm×横3cm)の写真
- (エ) 住 所 届 本学所定の様式
- (オ) 預金口座振替依頼書 本学所定の様式

(2) 入学料 282,000 円

(3) 入学手続日時は合格発表後に改めて通知する。

9 授 業 料 535,800 円 2 期分納 (4 月、10 月)

在学中に授業料の改訂が行われた場合には、当該改訂時から新授業料が適用される。

10 そ の 他

- (1) 入学願書様式等を郵便で請求するときは、返信用として宛名及び郵便番号を明記し、郵便切手(250円、10月1日以降返信の場合は320円)を貼付した角型2号封筒(33cm×24cm)を同封すること。(日本国内郵送のみ)
- (2) 出願書類を郵送するときは、必ず書留とし、封筒に「大学院医学研究科入学願書在中」と朱書すること。
- (3) 出願手続完了後は、志望主科目の変更は認めない。また、提出書類及び入学検定料の返還はしない。
- (4) 受験票は、第1次は令和6年11月5日(火)、第2次は令和7年1月27日(月)のともに午前9時から9時30分の間(時間厳守)に教育支援課において交付する。
- (5) 出願に関する問い合わせは、教育支援課あてに電話で行うこと。なお、メールによる質問は受け付けない。

授業科目の概要

(医学研究科医科学専攻)

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
疫 学	佐伯 圭吾 大林 賢史	<p>一般教育目標 (GIO) : 集団データの代表値や統計学的検定結果を吟味し、研究を正しく理解するための基礎力をつける。実際のコホート研究のデータ分析を行い、結果を発表する。</p> <p>個別行動目標 (SBO) : 1) 疫学研究デザインを理解して、研究の強みと限界点を指摘できる。 ①生態学的研究、②横断研究、③症例対象研究、④コホート研究、⑤無作為化比較試験、⑥システムティックレビュー・メタ解析</p> <p>2) 集団データの特性を、代表値を算出して説明することができる。 3) 基本的な統計学的検定法を理解し、分析に応用することができる。 4) 臨床課題について、二次情報および一次情報を収集し、エビデンスレベルを理解できる。 5) 臨床課題解決にむけて、適切な研究デザインを選択し、臨床研究を立案できる。 6) コホート研究のデータ分析を行い、学内・学外で発表する。</p>
公 衆 衛 生 学	今村 知明 野田 龍也 明神 大也	<p>公衆衛生学では、最新の生命科学や情報科学での成果を応用し、生活習慣や環境変化による人間集団の健康と疾病とにかかわる諸々の要因、諸々の条件の相互関係を科学的に教示するとともに、さらに社会医学研究から得られた科学的根拠は国や自治体の健康政策の立案に役立てていけるような人材を育成することを目指している。</p> <p>公衆衛生学では、今までの公衆衛生学だけでなく、医療政策、医療経済、病院管理、医学医療倫理、医療の質、医療安全、EBPH (evidence based public health) などの分野の体系的な講義を行うとともに、これらの社会医学研究を通じて得られた科学的根拠を国や自治体の健康政策の立案に役立てることが出来る様なスキルを身につけさせることを目指す。</p> <p>特に病院管理や医療制度の知識は医療従事者として社会で働くならば、医学知識を生涯用いて医療を行うことと同じぐらい、医療を実践する上で毎日必要になる知識である。</p> <p>これらを正しく知るために 1) なぜ公衆衛生や医療に関係する今のような制度ができて、今に至っているのか 2) そして今後それがどうなるのか 3) 厚生行政の背景から医療行政まで、体系的に理解できるようにする。</p>
医 療 経 営 学	今村 知明 野田 龍也 明神 大也	<p>医療経営学では、今後の医療人のあるべき姿として、必要な経営概念の理解・修得を目指す。また、医療経営に留まらず、医療政策、医療経済、EBPH (evidence based public health) などの分野の体系的な理解を促すことも目指す。</p> <p>特に病院管理や医療制度の知識は医療従事者として、医療を実践する上で必要な知識である。</p> <p>医療経営学は、今まで公衆衛生学の一環として行われていたものが独立し新設されました。公衆衛生学では、最新の生命科学や情報科学での成果を応用し、生活習慣や環境変化による健康と疾病とにかかわる諸々の要因の相互関係を科学的に理解し、そこで得られた研究成果を国や自治体の健康政策の立案に役立てていけるような人材を育成することを目指している。その一環として医療経営、医療政策、医療経済などの分野の体系的な理解を促すことも目指しており、一部重複しているところもある。</p> <p>これらを正しく知るために 1) なぜ公衆衛生や医療に関係する今のような制度ができて、今に至っているのか 2) そして今後それがどうなるのか 3) 厚生行政の背景から医療行政まで、体系的に理解できるようにする。</p>

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
M B T 学	梅田 智広	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学知識と技術の連携によるソーシャルホスピタル構想の検討 2. 高齢化社会での食を考える。砂糖の摂取と尿酸と認知症に関する研究 3. 高齢化社会での糖尿病と腎臓と高血圧に関する研究 4. IoT による環境データおよびバイタルサインの活用、評価に関する研究 5. 自立型社会を目指した運営モデルおよび政策の検討 6. 健康管理システム、プラットフォームに関する研究 7. 医療健康データ活用によるビッグデータ解析、評価手法に関する研究 8. 健康管理指標・尺度の検討、疾病リスク予測に関する研究 9. リハビリ・介護支援ツールに関する研究 10. ロコモティブシンドローム、健康寿命延伸に関する対応策の検討 11. MBT によるイノベーション創出に関する研究 <p>MBT (Medicine-Based Town) とは、 (新しく作る、または既存の)「まち」に医科大学や医師等が持つ医学の知識・叡智 (MBE) を注ぎ込み、付加価値の高いまち「MBT」を差している。これまで医師は、医学の知識を患者 1 人 1 人に対して用いてきたが、医師の持つ医学の知識は膨大であり、この知識や経験をものづくり、まちづくりに生かし、新産業創生、地方創生を目指す。</p> <p>IoT : Internet of Things (モノのインターネット) 従来は主にパソコンやサーバー、プリンタなどの IT 関連機器が接続されていたインターネットにそれ以外の様々な“モノ”を接続することを意味する。</p>
医療情報・病院管理学	玉本 哲郎 周藤 俊治	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療情報連携の戦略的な推進に関する研究 2. モバイル端末を利用した遠隔医療支援に関する研究 3. 病院情報システムへの標準規格の実装に関する研究 4. 患者状態適応型パスシステム (PCAPS) の有効な利活用に関する研究 5. 診療情報データに基づく医療の質の改善および向上に関する研究 6. 診療情報データに基づく医療安全に関する研究 7. 診療情報データに基づく医療・病院マネジメントに関する研究 8. 医療情報の有効な利活用を推進できる人材育成とそのキャリア支援に関する研究 9. 病院管理を有効に実践できる人材育成とそのキャリア支援に関する研究
高分子医化学	酒井 宏水 山本 恵三 松平 崇	生体高分子 (酵素、ヘムタンパク質など) の精製法と化学修飾法、リポソームなどマイクロ・ナノカプセルの調製法、これらの物理化学的計測法、機能評価法について学ぶ。ドラッグデリバリーシステム、人工血液、輸血代替、再生医療に用いられる医用材料、およびその生体内機能・安全性評価について、各自テーマに沿って研究を実施するとともに、国際学術誌に掲載された最新の論文の抄読会を行い、理解を深める。
分子・細胞動態学	永渕 昭良 小林千余子	一般教育目標 (GIO) 生命現象を分子のレベルで理解することを目標としている。特に、多細胞動物の形作りにおいてどのように細胞がお互いを認識し、接着しているのか、最終的にそれらがどのように統合されて、個体を構築できるのかを理解する。 個別行動目標 (SBO) <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞接着分子及びその制御分子の名称と機能を理解する。 2. 細胞の形態・極性・増殖の概念、細胞骨格の性質を理解する。 3. 正常な細胞とがん細胞の特性について理解する。
相分離生物学	森 英一郎	<ol style="list-style-type: none"> 1. LC ドメインを介した相分離の生物学的現象 2. 相分離現象の破綻による疾患発症機序 3. 原子解像度による相分離の分子基盤 4. ゲノム安定性に関わる監視機構 5. オルガノイドを用いた器官形成制御

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
分子生体構造科学	井上 浩一	<p>心筋梗塞や脳梗塞などの神経疾患の発症にはストレスによる身体局所機能の破綻が大きく関与する。本科目では種々のストレスが血管機能障害や神経疾患の発症に関わるメカニズムについて理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞のストレス応答 2. ストレスの身体、特に神経系・血管系への影響
機能形態学	辰巳 晃子 田中 達英	<p>主に神経系の疾患、脳卒中、脊髄損傷などの事例を基に何故神経組織は再生し難いか？ またそれを克服するための治療戦略開発をどのようにすれば良いか？ということについて考える。この中には損傷部位における再生阻害性基質や神経栄養因子の概念が含まれる。また神経幹細胞についてもその概念と実際例を学習する。</p>
脳神経生理学	齋藤 康彦	<p>一般教育目標 (GIO) 神経系の機能をニューロンレベルからシステムレベルまで理解することを目標とする。そのために、電気生理学的手法の原理を理解し、ニューロンやニューラルネットワークの動作機能を理解する。さらに、理解した内容を適切に説明できるようになることを目指す。</p> <p>個別行動目標 (SBO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ニューロンの細胞膜特性を理解し、正しく説明できる。 2. シナプスの伝達様式を理解し、正しく説明できる。 3. 神経生理学の原著論文を読むことができ、それを適切に説明できる。
生体機能制御機構学	堀江 恭二	<p>様々な生命現象を、ゲノム科学の観点から考察する。個々の遺伝子機能の解析に留まらず、様々な遺伝子間の相互作用やゲノム構造の変化に至るまで、常にゲノム全体を見渡す能力を養う。ゲノム科学を推進するには、ゲノムを積極的に改変して、その結果を解析することも重要である。特に、ES/iPS 細胞をモデル細胞に取り上げて、ゲノム改変の原理と最新知見を学ぶ。</p>
老化生物学	中村 修平	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物の老化・寿命を制御する分子機構 2. 細胞内分解システム、オートファジーの分子機構と老化・疾患における役割 3. リソソーム恒常性維持の分子機構と老化・疾患との関わり
微生物学	矢野 寿一 中野 竜一	<p>一般教育目標 (GIO) 医療従事者は、どの分野、どの領域を専門としても、微生物学、感染症学に必ず関わりを持つことになる。特に、抗菌薬の効かなくなった薬剤耐性菌は、感染症治療上、あるいは院内感染対策上の脅威として降りかかってくる。さらに今後も、新規耐性機序を持った未知の薬剤耐性菌が次々と出現することが予想されている。本講義では、薬剤耐性菌について、その出現の仕組みと耐性発現機序についての理解を目指す。</p> <p>個別行動目標 (SBO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各種薬剤耐性菌の検出方法を説明できる 2) 各種薬剤耐性菌の耐性機序を説明できる 3) 各種薬剤耐性菌の制御方法を説明できる
感染免疫学	伊藤 利洋 北島 正大	<p>一般教育目標 (GIO) : 病原体に対する抵抗性を担う免疫系が、もともと「自己の確立と維持」のために存在する機構であることを認識できるように、免疫学的自己を規定する因子、免疫系の遺伝学的特性及び免疫系を構成する細胞群や蛋白質の特性とこれらの相互作用、及び免疫系の破綻による疾病発現機序を学ぶ。</p> <p>個別行動目標 (SBO) :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 免疫学的「自己」「非自己」について説明できる。 2) 自然免疫や獲得免疫を担う細胞各種因子についてその役割を説明できる。 3) 様々な疾患の発症メカニズムについて、免疫学的に説明できる。 4) 免疫学的検査法の手技を列記でき、検査の特徴や意義を説明できる。

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
情報伝達薬理学	吉栖 正典	<p>一般教育目標（GIO）： 薬理学・臨床薬理学は応用学・治療学の側面があり、これまでの基礎的研究の成果を臨床に結びつける探索的研究（Translational Research）に最も近い生命科学分野の一つである。講義では、薬理学研究を進める上での基礎的な知識と方法論を学ぶ。</p> <p>個別行動目標（SBO）： 1) 心血管病における酸化ストレスの関与と細胞内情報伝達系が説明できる。 2) 神経変性疾患の分子機構と薬物療法について説明できる。 3) 糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病に対する抗酸化療法について説明できる。</p>
分子腫瘍病理学	國安 弘基	<p>病理学は疾病の病因・病態を解明する総合の学問である。病理学により、疾患の成り立ち、病理組織学的所見とそれらに対応する臨床的所見を系統的ならびに疾患別に学習することにより疾患を深く理解することが必要である。また、基礎的知識の修得とともに、分子病理学に基づく最新の知見を学習し、研究に応用することが期待される。</p>
発生・再生医学	栗本 一基 小林 久人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織学に統合された単一細胞解析技術の開発 2. 生殖細胞の発生機構の研究 3. 生殖細胞の品質管理機構の研究 4. エピゲノムリプログラミング機構の研究 5. インプリント制御機構とその種差表出機構の研究
血栓止血先端医学	辰巳 公平	<p>本科目では、血友病などの血栓止血領域の疾患のみならず、炎症性疾患、代謝性疾患、がん、循環器・呼吸器・消化器疾患など各種臨床分野の疾患を幅広く対象として、血栓止血学を基本軸とした基礎研究アプローチで未知の分子病態機序を明らかとするとともに、先進的かつ新規治療法を確立することを目標とした研究を行う。具体的には、各種凝固線溶因子の遺伝子欠損マウスや培養細胞を駆使して、臓器間の新規の連関機構を明らかとし、また、iPS細胞や細胞シート工学等の最先端の再生医療技術や核酸医薬技術も導入することで次世代治療法を確立することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 炎症性疾患における凝固線溶因子の関与に関する研究 2. 代謝性疾患における凝固線溶因子の関与に関する研究 3. 未熟児疾患における凝固線溶因子の関与に関する研究 4. 加齢と凝固線溶因子の関連についての研究 5. 間葉系幹細胞、iPS細胞を用いた血液凝固異常症治療に関する研究 6. がん関連血栓症の分子病態機序の解明に関する研究 7. 臓器連関における凝固線溶機構の関与の解明
応用医学・医療学	吉栖 正典 菓子野元郎	放射線による生物影響の解明
循環器システム医科学	小亀 浩市 中川 修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血球・凝固線溶系を中心とした心血管系の機能調節機構 2. 心血管系の発生・形態形成におけるシグナル伝達と転写調節の意義 3. 先天性心疾患・遺伝性血管病・凝固異常症の病因・病態メカニズム

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
循 環 器 病 態 制 御 医 学	彦 惣 俊 吾 渡 邊 真 言	<p>高齢化に伴い、再入院を繰り返す慢性心不全が増加しており、退院後の家庭での管理が問題となっている。奈良医大循環器内科および関連病院でフォローしている慢性心不全症例を対象に、症例登録を行い、看護師による外来でのケア、薬剤師による服薬指導、栄養士による食事療法等の介入を行い、家庭での管理体制の改善を試みる。</p> <p>個別行動目標（SBO）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 奈良医大循環器内科に入院した心不全を登録する。 2. 外来症例の薬物服用状況を把握する。 3. 服薬指導、栄養指導等の介入を行い、再入院が減少するかを検証する。
腎臓病態制御医学	鶴屋 和彦 鮫島 謙一 江里口雅裕	<p>腎臓病およびその合併症の病態と機序を解明することを目的として基礎研究と臨床研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性腎臓病の進展に及ぼす間質線維化の関与 2. ネフローゼ症候群における尿細管障害の関与 3. 慢性腎臓病の発症・進展に及ぼす脂質異常症の関与 4. 術後の急性腎障害に及ぼす因子の検討 5. 慢性腎臓病の血管石灰化の機序の解明 6. 特定健診データを用いた慢性腎臓病患者の生命予後・腎予後に関する検討 7. 糖尿病性腎症における腎生検病理所見と腎予後との関係 8. 慢性腎臓病における尿中 FSP-1 と腎予後との関係 9. IgA 腎症再燃時のステロイド治療と腎予後との関係 10. 微小変化群に対する少量ステロイド治療の有効性 11. 心腎連関に及ぼす交感神経系の関与 12. 透析法と冠動脈石灰化および脳萎縮の進展との関係
呼 吸 器 病 態 制 御 医 学	室 繁 郎 山内 基雄 山本 佳史 藤田 幸男	<p>様々な基礎疾患に伴う慢性呼吸不全患者の病因・病態を理解するとともに、QOL の改善を目指した『包括的呼吸ケア』、『呼吸リハビリテーション』（運動療法、栄養療法、精神的サポート、薬物療法、在宅酸素療法を含む）について理解し最新の知識を習得する。</p>
血液病態制御医学	松本 雅則	<p>講 義</p> <p>造血器疾患について研究の基礎となる知識の習得を目的として以下の内容について講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 造血器悪性腫瘍の病因および診断、治療 2. 造血幹細胞移植の基礎 3. 血栓・出血性疾患の病態生理および診断、治療 4. 血液疾患における末梢血像、骨髄像 <p>演 習</p> <p>文献検索を通して研究に必要な最新の知見について理解を深める。また、血液疾患の診断の基礎となる末梢血、骨髄像を、実際に顕鏡を通して理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 末梢血、骨髄スミアの顕鏡を行う 2. 研究領域についての文献を収集し、最新の知見を理解する <p>特別研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血液悪性腫瘍およびその治療薬に伴う血栓性、出血性合併症に関する研究 2. 造血幹細胞移植における合併症に関する研究

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
脳 神 経 機 能 制 御 医 学	中川 一郎 西村 文彦	一般教育目標 (GIO) : 脳神経疾患の研究を行う上で必要な関連領域の知識・理論を学ぶ。 個別行動目標 (SBO) : 1) 脳神経の機能制御に関わる基本的な解剖・生理学について学習する。 2) 脳神経領域疾患の診療過程に必要な病理病態・診断学についての知識を修得する。 3) 脳神経領域疾患に介入される治療に関する理論的根拠や臨床エビデンスを理解する。 4) 機能回復の為のリハビリテーションを含めた治療法の知識・技術を習得する。
循 環・呼 吸 機 能 制 御 医 学	細野 光治 濱路 政嗣	心臓大血管手術において必須の補助手段である体外循環は、様々な非生理的側面を有し、術中術後の患者に悪影響を及ぼし得ることが知られている。この体外循環にかかわる病態生理の理解を深める。 1. 血流様式と臓器灌流 2. 低体温 3. 血液凝固 4. 免疫機能 5. 神経内分泌機能 6. 血管 (内皮細胞) 機能 などについて理解し、体外循環の問題解決に向けての考察を深める。
運 動 器 再 建 医 学	田中 康仁 面川 庄平 朴木 寛弥 城戸 顕 谷口 晃 小川 宗宏 河村 健二 稲垣 有佐	整形外科的疾患の概要と基礎的知識の習得 代表的な整形外科疾患の診断と主たる治療適応 症例発表と方法 骨関節疾患の最新情報と将来展望
ス ポー ツ 医 科 学	田中 康仁 小川 宗宏	生活レベルの安定と質の向上に伴い健康生活へのスポーツ活動の持つ重要性は広く認識されつつある。同時にスポーツ活動による傷害 (外傷・障害) の発生も多くみられ、その病態もより多様化しつつある。スポーツ傷害における病態を解明し、傷害予防や有用な治療法の開発といった医学的観点からの取り組みについて理解し、スポーツ活動が持つ健康への身体的効果についての知識を習得する。下記のテーマを中心とした講義を実施する。 1. スポーツ医学とは (スポーツドクター、アスレチックトレーナー、スポーツ栄養士などの役割) 2. スポーツ現場での応急処置 (救急蘇生法、外傷処置、テーピング) 3. スポーツ傷害を理解するための基礎知識 (運動器機能解剖、小児・発育期の特徴) 4. スポーツ傷害の実際 5. スポーツ傷害予防と早期復帰への取り組み (アスレチックリハビリテーション)
小 児 病 態 制 御 医 学	野上 恵嗣	下記のテーマを中心に、講義を実施する。 1) 血液凝固制御機構に関する基礎と最近の知見 2) 血友病遺伝子治療 3) 先天性凝固障害症の分子生物学的アプローチ 4) 血液凝固機能に関する最新の評価法について 5) ヒトモノクローナル抗体の作成と応用について
発 生・発 達 医 学	内田優美子	1. 成熟新生児と低出生体重児における血液凝固制御因子の特性と慢性肺疾患との関連 2. 臍帯血管内皮細胞から見た成熟新生児と低出生体重児における血栓止血制御機構の解明 3. 早産児ビリルビン脳症の病態解析

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
皮膚病態医学	浅田 秀夫 桑原 理充 新熊 悟	目 標： 免疫器官としての皮膚の役割を知り、代表的なアレルギー性皮膚疾患の病態を理解する。 講義内容： 1. 皮膚に備わる巧妙な免疫システムについて 2. アトピー性皮膚炎・接触皮膚炎と免疫 3. 微生物と皮膚アレルギー
画像診断・低侵襲治療学	田中 利洋 西尾福英之 市橋 成夫	画像診断学全般および画像診断学を治療に応用した低侵襲治療の基礎と実際を理解するとともに、最新の知見を得る。
放射線腫瘍学	磯橋 文明 玉本 哲郎 浅川 勇雄	腫瘍学全般および放射線腫瘍学の概要を修得する。特に放射線生物学、放射線物理学、放射線技術学、臨床腫瘍学、放射線治療学等の理解を深める。 1. 腫瘍の分類、病理学的および分子生物学的特徴の概要を理解する。 2. 臨床腫瘍学全般、特にがんゲノム医療学の概要を理解する。 3. 放射線生物学、放射線物理学の基礎を理解し、高精度放射線治療の概要を修得する。 4. 放射線腫瘍学の概要、放射線療法における標準的治療、先端的治疗について理解し、修得する。 5. 肺癌、前立腺癌、脳腫瘍等の代表的な腫瘍における放射線腫瘍学の具体的な役割と進歩について理解し、修得する。
侵襲制御・生体管理医学	川口 昌彦 林 浩伸 恵川 淳二 内藤 祐介	講 義 G I O：麻酔科学の分野を中心に関連領域の幅広い学習を行い、麻酔・蘇生学領域の知識・理論を修得する。 S B O： 1) 最適な麻酔管理の補助を行える知識・技術を修得する。 2) 生体監視法の理念を理解し、その使用法・評価法を修得する。 3) 呼吸器・循環器を中心とする各種臓器機能不全症の管理の補助技術を修得する。 4) 急性痛、慢性痛の知識・技術の補助を修得する。
臨床神経モニター学	川口 昌彦 中川 一郎 林 浩伸 重松 英樹	1. 周術期の脳波に関する研究 2. 脳神経モニタリングに関する臨床研究 3. 脳神経モニタリングに関する基礎研究 4. 脳脊髄における循環代謝モニターに関する研究 5. 脳神経モニタリングにおける機器の開発研究
口腔・顎顔面病態医学	山川 延宏 柳生 貴裕	1) 口腔顎顔面領域における疾患の診断、病態、治療についての最新の知見とその予防ならびに周術期口腔管理とがん治療における有害事象軽減のための口腔ケアの意義について修得する。 2) 口腔顎顔面領域の術後の整容と機能再建について、現在の問題点を理解しその解決法について研究を行う。 3) 間葉系幹細胞を用いた培養人工骨による顎骨再生再建法の臨床応用を目指し、その基礎を修得する。
病理診断学	吉澤 明彦 武田麻衣子 内山 智子	G I O：病理診断学の基礎的事項を習得し、臨床の場で病理診断がどのような役割を果たしているかを理解する。 S B O： 1) 炎症、腫瘍など、基本的病態を理解する。 2) 生検、細胞診、外科的切除材料診断、迅速診断がどのように行われているかを理解する。 3) 代表的疾患の病理組織や細胞を顕微鏡的に観察し、正常との違いを知る。 4) 病理組織標本、細胞診標本の作製方法を理解する。

主 科 目	研究指導教員	講 義 等 の 内 容
リハビリテーション医学	城戸 顕 稲垣 有佐 石田由佳子 田中 康仁	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者の複合障害を対象としたリハビリテーション治療に関する研究 2. 神経筋疾患の予後予測を目指した電気生理学的評価 3. 心臓リハビリテーション患者の日常生活機能障害に関する研究 4. 関節症状を伴う全身疾患の歩様解析による病勢制御
臨床検査医学	山崎 正晴	<p>病態情報解析について基本的な知識・技術を学ぶ。</p> <p>検査データの生理的変動因子、アーチファクト、病態生理学的意義を理解すること。臨床化学および分子生物学的な解析方法の学習。検査データの統計情報学的処理方法の学習。など</p>
血液・血流機能再建医学	松本 雅則 酒井 和哉	<p>一般教育目標（GIO）：</p> <p>ヒトは出血と血栓という相反するリスクに常にさらされているが、血漿中に数多く存在する止血因子の相互作用によって保護されている。本講義では血流の影響を受けダイナミックに構造・機能が変化する止血因子 von Willebrand 因子（VWF） およびその特異的切断酵素 ADAMTS13 の研究を行うことで、出血および血栓性疾患の病態の理解を深める。</p> <p>個別行動目標（SBO）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. VWF および ADAMTS13 検査手技を習得する。 2. ヒト血漿からの VWF と ADAMTS13 精製手技を習得する。 3. 血栓性血小板減少性紫斑病の病態を理解する。 4. 後天性 von Willebrand 症候群の病態を理解する。 5. 先天性 von Willebrand 病の病態を理解する。
臨床実証医学	笠原 正登 浅田 潔 倉上 弘幸 武内 治郎	<p>講義概要</p> <p>G I O：臨床研究における基礎的知識と方法論を学ぶ</p> <p>S B O：1. 臨床研究立案における基本的知識を身に付ける</p> <p>2. 臨床研究実施体制構築の知識を身に付ける</p> <p>3. 臨床試験の結果報告の知識を身に付ける</p> <p>演習概要</p> <p>G I O：臨床研究における基礎的知識と方法論を学ぶ</p> <p>S B O：1. 臨床研究支援を目的にしたマネジメント能力の修得</p> <p>2. 臨床研究体制における GCP の理解</p> <p>3. エビデンス構築のノウハウを確立</p>
先端画像下治療開発応用学	穴井 洋	<p>低侵襲治療となる画像下治療（Interventional Radiology ; IVR）について現状の知見の修得と問題点について学ぶ。その中で今後の改良点を見出し、新規の治療方法やアプローチ方法、技術的支援などを検討・学習する。</p>
陽子線腫瘍学	吉村 均	<ol style="list-style-type: none"> 1. 陽子線治療における Dual energy CT を用いた飛程計算に関する研究 2. Off-line PET を用いた体内での飛程測定に関する研究 3. 陽子線の生物学的効果比に関する研究 4. 陽子線治療における中性子による影響に関する研究 5. In-room CT を用いた治療毎の再現精度に関する研究 6. In-room CT と超音波画像で求めた膀胱容量の差異に関する研究 7. 陽子線治療のロバスト治療計画に関する研究 8. 陽子線治療と光子線治療の線量分布比較に関する研究

A

奈良県立医科大学大学院医学研究科（修士課程）入学願書
（第 次）

		※受験番号	第	号
ふりがな				
志願者氏名			性別	男 女
生年月日	年	月	日生	満年齢 才
出願資格	大 学	大学 学部 学科 年 月 卒業、卒業見込		
	その他			
免 許・資 格	免許 取得年月 番号		免許 取得年月 番号	
	免許 取得年月 番号		免許 取得年月 番号	
	免許 取得年月 番号		免許 取得年月 番号	
志 望 科 目	学			
連 絡 先	〒			
	TEL			
その 他の 連絡 先	ふりがな			
	氏 名			
	住 所	〒		
TEL				
<p>貴学大学院医学研究科（修士課程）に入学を志望しますので所定の書類を添えて提出いたします。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p>奈良県立医科大学長 殿</p> <p style="text-align: right;">志願者氏名（自署）</p>				

※欄は記入しないでください。

（第 次）

奈良県立医科大学大学院医学研究科
（修士課程）

受 験 票

※受験番号	
ふりがな	
氏 名	
志望科目	
外国語	英 語
この票を受験中は必ず机上に置く事	

※は記入しない

（第 次）

奈良県立医科大学大学院医学研究科
（修士課程）

写 真 票

※受験番号	
ふりがな	
氏 名	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>出願前3ヶ月以内に撮影した正面上半身無帽背景なし（縦4cm×横3cm）の写真（裏面に撮影年月日及び氏名を記入すること）を貼ってください</p> </div>	

※は記入しない

履 歴 書

ふりがな				性別
氏名				男・女
生年月日		年 月 日生		
本籍		現住所	TEL	
学歴 (高校卒業 から記入)	年	月		
職歴	年	月		
賞 罰				
上記のとおり相違ありません				
年 月 日				
氏名(自署)				

受験及び就学承諾書

氏名

生年月日 年 月 日

上記の者が、年度奈良県立医科大学大学院医学研究科の入学試験を受験することを承諾します。

なお、本人が貴大学院医学研究科に社会人大学院生として入学した場合は、在職のまま就学することを承諾します。

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

所在地

機関名

所属長（職・氏名）
（自署）

志望理由書

氏名

奈良県立医科大学大学院医学研究科

注：本様式に直接記入するか、本様式（A4版）に準じてパソコン等により作成すること。

研究計画書

氏名		奈良県立医科大学大学院医学研究科
研究課題		
研究計画概要		

注：研究計画の概要を 2,000 字程度にまとめ、本様式（A 4 版）に準じてパソコン等により作成すること。

研 究 活 動 歴

氏 名		奈良県立医科大学大学院医学研究科
年 月	事 項	

注：1. 学会及び社会における活動等（各種団体や委員会等の委員）について、団体名、役職名、活動内容（研究発表等を含む。）及び期間を年次順に記入すること。

注：2. 本様式に直接記入するか、本様式（A 4 版）に準じてパソコン等により作成すること。

奈良県立医科大学大学院医学研究科（修士課程）
出願資格審査申請書

		番 号	第 号
ふりがな			
申請者氏名			性別 男 女
生年月日	年 月 日 生	満年齢	才
出願資格	大 学	大学 学部 学科 年 月 卒業、卒業見込	
	その他		
免 許・資 格	免許 取得年月 番号	免許 取得年月 番号	免許 取得年月 番号
	志 望 科 目		
	学		
連 絡 先	〒		
	TEL		
その他の連絡先	ふりがな		
	氏 名		
	住 所	〒	
TEL			
<p>貴学大学院医学研究科の出願資格審査について、所定の書類を添えて申請いたします。</p> <p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>奈良県立医科大学長 殿</p> <p style="text-align: right;">出願者氏名（自署）</p>			

受験番号

※

入学検定料納付証明書貼付台紙

ふりがな
氏名

入学検定料納付証明書貼付欄

こちらに貼付ください。

注) ・振込証明書等を貼付欄に貼付のこと。

・※印欄は記入しないこと。

宛名票

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<p>殿</p>						
<p>※ <input type="text"/></p>						

(注意)

1. 合格通知書等送付先を記入してください。
2. ※印欄は記入しないでください。

宛名票

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<p>殿</p>						
<p>※ <input type="text"/></p>						

(注意)

1. 合格通知書等送付先を記入してください。
2. ※印欄は記入しないでください。

宛名票

<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<p>殿</p>						
<p>※ <input type="text"/></p>						

(注意)

1. 合格通知書等送付先を記入してください。
2. ※印欄は記入しないでください。